

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

平成29年12月1日

12月号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



歌声に包まれた豊かな時間

校長 笹原 秀之

今年も校内音楽会を文化センターで実施しました。当日は曇天の冷え込む中、早くから多くの皆様が並んで開場を待っていただきました。開演時には約2000席の会場は満席で、子どもたちの気持ちを後押ししていただきました。座席にお父さんやお母さんを見つけては手を振っている姿も見受けられました。子どもを含め、皆さんが楽しみにしていただき、改めて感じました。また、合唱・演奏には大きな拍手をいただきました。誠にありがとうございました。

私も、学年ごとに練習の成果を発揮してホール一杯に響かせている素晴らしい歌声を聴いたり真剣に取り組む姿を見たりして感動を覚えました。また、1年生から6年生と学年が上がるにつれて、声の出し方の違いや音楽的な表現の特徴などが見られ、子どもたちの成長を感じました。

お越しいただいた来賓の方々からは、「今年は特にとどの学年もよくまとまっていて、素晴らしい歌声でした。」「いい音楽会でした。」「子どもたちの声の出し方がきれいですばらしかったです。」というような感想もいただきました。

力一杯取り組んだことへの満足感、みんなで声を合わせて美しいメロディーをつくり上げた成就感、大舞台上で緊張しながらも多くの保護者や別の学年の人たちに聞いていただいた達成感などを感じたと思います。

歌い終わった後、そんな表情をしていました。成果の多い充実した時間となりました。

中学校の合唱祭では、各クラスでの取り組みとなり、子どもたち自身が自主的に練習をして、クラスとして団結し、その絆を深めていきます。以前、中学校が荒れていた頃、学校全体で合唱に取り組むことで生徒の気持ちを高め、まとめ、落ち着いた学校になったという事例もよく聞きました。

音楽は、音楽的スキルや感覚を育てるだけでなく、情緒的な面、また、音楽をつくりあげていく過程で、人とのかかわりを意識することで人間関係を発展させるということなど様々な効果が考えられます。また、保護者や地域の方々も、学生生活や人生の思い出の場面に音楽が共にあったということも多いのではないかと思います。音楽は生活を豊かにしてくれます。これからも、子どもたちには様々な形で音楽に親しんでほしいと思います。

次年度からは文化センターが工事に入り使用できなくなるようですが、形を変えても音楽会は継続していきます。また、1年後の成長をご覧ください。11月にしては例年になく寒い中、会場の中は暖かい雰囲気、心がホッとするような時を過ごすことができました。

さて、いよいよ12月です。1年の最後の月として、今年を振り返り、また同時に来年に向けての準備を始める時でもあります。お子さんについても、今年の成長、そして今の課題を見つめ直し、来学期や次年度につなげていくことが重要です。師走で忙しい時ではありますが、このような視点でも声掛けや指導を行っていただきたいと思います。



1年合唱



6年合奏



南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

平成29年12月22日

冬休み前特別号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



目標と励まし

校長 笹原 秀之

本校児童の体力テストの結果から見えてくる課題は持久力でした。どうか持久力を高めていきたいと思っていました。また、保護者の学校評価にも、持久走大会について書かれたものがありました。

本校では、理由は不明ですが、持久走大会等の行事は行っていませんでした。そこで、今年度から持久走記録会を実施して、そこに向けて練習に取り組むことにより体力を高めることにしました。

練習は業間休みが中心でしたが、中には登校した後や放課後なども走っていた児童もいました。1日に走る目標を定めて継続した児童もいました。記録会当日は、自らの目標を超えようと一生懸命に走る姿が印象的でした。また、ペア一学年で応援したり走った距離を数えてあげたりして、心温まる雰囲気の中で実施されました。

さて、目標のもち方にはどのような方法があるのでしょうか。

私の経験では、学習面・運動面共に自分の順位や点数の目標だけではなく、〇〇君に負けたくないという気持ちも自分のモチベーションを高める動機としてありました。自分を高めるライバルに勝ったり高い目標を克服したりすることで向上したり努力した喜びを感じたりする経験も、成長には大切であったと思います。しかし、これは長期的な将来につながる目標のもち方にはならないのではないかと思います。

「学習」や「運動」は、自らが様々なことができるようになったり、学力や体力を高めたり、健康になったりと、自らの力や生活がよりよく変化することが重要です。そのためのスモールステップの目標を自ら設定することができるようになれば意欲も高まり努力も継続します。しかし、小学生のうちはなかなか難しいものです。そこで、課題の認識や目標の設定の際に、手助けをすることが親や教師の役目なのではないでしょうか。

一度目指すところが定まれば子どもは自ら取り組み始めます。小さな目標を1つ1つクリアしていけば、その中で学ぶこと・運動することの楽しさを知ります。そうすると自らの触手を伸ばして動きはじめます。活動に没頭します。

右の詩は、98歳で亡くなった国語教育者の大村はま氏が、最後に残した「優劣のあなたに」です。これは、教師が常に念頭に置いて目指さなくてはならない姿です。保護者の皆さんも、特に小学校の段階で、お子さんが何かにひたすらな心でひたすらに励む姿を引き出し、認めてあげていただきたいと思います。

通知表を見る時も、単に兄弟との比較、Aの数が増えた減ったということだけではなく、その子の頑張ったことを褒めてあげて次の課題を確認して意欲につながるようなお話をしてあげてください。

あるメーカーが募集し佳作特別賞を受賞した俳句に次のようなものがありました。

複雑だ サンタの前の 通知表



優劣のあなたに

優か劣か
そんなことが話題になる、
そんなすさまじい
つきつめた姿。
持てるものを
持たせられたものを
出し切り
生かききっている
そんな姿こそ。

優か劣か、
自分はいわゆるできる子なのか
できない子なのか、
そんなことを
教師も子どもも
しばし忘れて、
学びひたり
教えひたり
教えひたっている、
そんな世界を
見つめてきた。

学びひたり
教えひたる、
それは 優劣のあなた。
ほんとうに 持っているもの
授かっているものを出し切って、
打ち込んで学ぶ。
優劣を論じあい
気にしあう世界ではない。
優劣を忘れて
ひたすらな心で、ひたすらに励む。

大村 はま

今は、できるできないを
気にしすぎて、
持っているものが
出し切れていないのではないか。
授かっているものが
生かき切れていないのではないか。

成績をつけなければ、
合格者をきめなければ、
それはそうだとしても、
それだけの世界。
教師も子どもも
優劣のなかで
あえいでいる。

学びひたり
教えひたろう
優劣のあなたで。

皆様のおかげで、2学期も無事過ごすことができました。感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。